

特集

神之池の桜守

咲かせる楽しみ、見てもらう喜び

桜守とは、文字どおり桜を守り世話をする人のこと。桜の名所として親しまれている神之池緑地ですが、春に美しい花を咲かせるため、一年かけて桜を慈しみ管理している人たちがいるのをご存じですか？今回は、神之池桜守隊の活動をご紹介します。



① 神之池緑地の春
②・③ 鹿島開発に伴い神之池緑地を整備し桜を植樹した
④ 神之池桜守隊による桜の植樹
⑤ 神之池桜守隊と活動を応援してくれる株式会社クラレの皆さん



植樹から50年が過ぎた桜

入学式や入社式、新生活への旅立ちなど、希望と喜びにあふれる季節を彩る桜の花。桜は日本を象徴する花のひとつであり、日本人にとって春の風物詩といえばお花見です。春になると、開花予想から始まり開花宣言、桜前線、三分咲き、五分咲き、満開と、桜の話題に心を躍らせ、散りゆくさまの桜吹雪や花いかだ(水面に散った花びらが連なって流れる様子)も人々の目を引きつけてやみません。桜の名所は全国各地にあり、春の訪れを満喫するお花見は特別な楽しみとなっています。

市内にもあちらこちらにお花見スポットがあり、中でも神之池緑地は桜の名所として親しまれ、毎年開催される桜まつりは大勢の市民でにぎわいます。ここに桜が植えられたのは約50年前、鹿島開発に伴い神之池緑地が整備されたころです。2020年・2022年の樹木調査により、現在ソメイヨシノのほか8種類、約2000本の桜があることが分かりました。毎年、当たり前のようにきれいに咲く桜を見たいですが、実はこの地質は桜にとっ

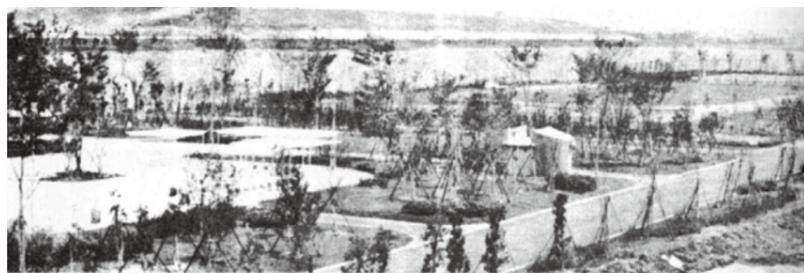
に愛される憩いとにぎわいの場にしていくため、2024年に「神之池桜守隊」を発足させました。「桜守」は、市民参加・協働により樹木のパトロールや維持管理を担うボランティア組織です。この活動をとおり、市民が主体となって緑地を守り、公園を利用する人たちにも樹木を大切に思ういや行動が定着することを目指しています。

主な活動内容は、年4回の講習会、視察、桜の植樹などです。講習会の講師を務めるのは樹木医の芦垣明彦さん(神奈川県)で、隊員たちは専門的な知識を学び、現地演習でさまざまな技術を身に付けます。例えば2025年度第2回講習会(9月6日)では、倒木の恐れのある桜を、滑車とロープを使って根っこから引き抜く作業をおこないました。こうして出た木や枝は、バイオマス燃料の一部として活用しており、他の利用方法も検討中です。また、第3回講習会(11月15日)では、てんぐ巢病の



樹木医の芦垣さん

て最適とは言えないように、地面が固いため根が張りにくく、土の栄養が少ないことに加え、一年中風が直接当たると、乾燥しやすいなど、厳しい環境



約50年前の神之池緑地

に桜も「生きにくさ」を感じているかもしれません。さらに、植樹から50年が過ぎた今、腐朽菌による枝枯れや空洞化が見られ、約8割にもぼる桜が不健全と判断され、樹形が乱れて景観にも影響が出ています。今後もお花見を楽しむためには、一年を通して桜を地道に守り育てていくことが必要です。

樹木医から知識と技術を吸収

市では、神之池緑地をさらに市民が発見・除去のポイントを学び、演習では脚立や高所剪定用ノコギリを使って、実際にてんぐ巢病にかかった枝を除去しました。

隊員は、講習会で学んだことを実践する自主活動もしています。12月中旬から1月下旬に桜老朽木の観察・点検をおこない、調査票に樹勢、樹形の状態をはじめ、枯れ枝・枝折れ・空洞・腐朽・揺らぎ・不自然な傾斜・キノコなどの有無を記録し、写真を添付したり木の状態をスケッチしたりして講習会で発表。もし危険木に気づいた場合は、市に報告します。

他に、視察研修(10月28日)として名勝・天然記念物「桜川のサクラ」のある磯部桜川公園(桜川市)を見学し、市の取り組みや桜の保全について話を聞きました。

また、企業も神之池桜守隊の活動を応援してくれています。株式会社クラレは神栖市の企業版ふるさと納税を活用。2025年の植樹式「桜植樹会」に参加し、計5本(ソメイヨシノ3本、センダイヤ1本、ジンダイアケボノ1本)を植樹いただきました。今年も引き続き、3月7日にシダレザクラ1本のほかソメイヨ